

1. 調査報告概要表

作成日平成 19年 4月30日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入)
法人名	株式会社 愛光園
事業所名	グループホーム パラの家
所在地	福山市沖野上町1-3-11 (電話) 084-928-6123
評価機関名	特定非営利活動法人西日本医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成19年4月25日

【情報提供票より】(19年 4月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	人	常勤 人, 非常勤 人, 常勤換算 人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り 3階建ての 2、3階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1200 円	

(4) 利用者の概要(4月 25日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	6名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	6名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	74歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	こばたけ医院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の静かなところにグループホームとして立てられたものでホームとしての機能は良くできている。ホーム長以下職員はホームとしての役割をよく認識しておられ介護に取り組まれている。入居者の持っている能力を引き伸ばす介護(調理に取り組む姿)や看取りをされたことはこれからの密着型に求められるものであり、これからもこの取り組みをすすめられることを期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	認知症予防教室の講師としての参加や町内会長、民生委員との話し合うなど地域密着型サービスとしてのグループホーム作りに取り組んでおられる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 地域密着型としての理念がまだ出来ていないが職員と一緒に作られることを期待する。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は2ヶ月に一回(偶数月)開催されているが町内会長、民生委員の参加が望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族へは たよりの発行と来られたときに話し合いや必要に応じて連絡をとっておられる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に入っておられ、町内の掃除に参加や敬老会に参加など地域との結びつきに心を配られている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を玄関から入るとすぐ見えるように大きく掲げており、事務室にも掲げている。また毎日の引継ぎ時に唱和している。地域密着型としての理念とする取り組みが見えない。		認知症予防教室の講師として出られたときなどに地域の中に認知症の人もおられるのでその家族などの話を聞きながら地域にあるホームとしての理念を職員と一緒に検討されることを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の引継ぎ時に唱和されており、介護についての話し合いの中に活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入っておられ、道路の掃除や敬老会に参加などの町内の行事に参加しておられる。		町内会では地域密着型サービスの意味と内容が良く理解されていないようだ。包括介護支援センターなどと一緒にPRに勤められることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	内容が変わって初めての取り組みであるが、職員にはその旨を周知し、次回からは職員と一緒に作成を検討しておられる。		介護計画と介護の実践を結びつけた取り組みがされているが、この評価と三つを一体となる取り組みを期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会は2ヶ月に一度開かれており(偶数月第四土曜日)、2月には24日にホームで参加者は家族(6名)、地域包括介護支援センター職員、バラの家の社長、ホーム長である。内容は地域包括介護支援センターの役割とバラの家に状況が話されている。		運営委員会の役割は地域にあるグループホームの役割を地域の人たちに理解していただくことから始まるのであり、町内会長、民生委員の参加が望ましい。認知症予防教室に講師として出られるのでそのようなところから地域に理解を求める働きを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括介護支援センターとは連絡をとっておられ、運営推進会議に参加されているが市との連携が少ない。		介護認定の申請時などの機会を通じて行政の状況を聞きだすなどの活動を期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	便りを3ヶ月に一回発行し知らせており、家族の訪問時には状況の説明をしておられる。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を出しており、家族とは訪問時には話し合っており意見を反映するよう努力をしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員確保のため派遣を利用している。派遣は仕事の内容によりできない仕事が出ている。		派遣の人も日常的に行なわなければならない仕事はできるよう派遣会社と話し合うことが大切です。(例えば仕事の具体的な内容を示しそれで派遣をお願いする。)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事故対策の研修に参加し、事故委員会で活用されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ポチポチインターネットに入っておりホーム長は個人的にも交流をしている。		地域の業界としての交流ができる機会があり、職員もそれに参加できるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	入居前の訪問や体験入居を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員と入居者の対話は自然な形で行っており、入居者どうしの対話が見られる。私達(訪問者)に話しかけてこられたのはうれしかった。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	カンファレンスは1ヶ月以上の時間をかけて入居者、家族の意見を聞いて行なっている。担当者だけでなく職員同士で話し合いを行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	入居者に担当者を決めているがカンファレンス、介護計画にはほかの職員の意見を聞いて作成している。また、理念に則した介護計画の実現に取り組んでおられる。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月に一度の見直しをしておられる。見直しは1ヶ月以上の時間をかけ入居者、家族および職員の意見を聞いて作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームでできるデイサービスやショートステイの計画がある。		地域でのなじみのホームとなるよう期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が週に一度の訪問をしている。なお、かかりつけ医は24時間対応としている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医、家族と看取りを行なっている。なお、そのための部屋の改造計画がある。		かかりつけ医、看護師、家族と連携し看取りの体制を作られることを期待する。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室内ではひとりになって自由にできる対応をしている。個人情報はきちんと整理して保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性をカンファレンスにより確認しており、自由に生活できている。調理人だった人が入れ、その腕を発揮できるように取り組まれてその人はいきいきとした生活となっておりとても頼もしく感じた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間はゆったりとしており、メニューは入居者の希望を入れたものになっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の午後に入浴時間を設定しており希望を聞きながら入れるようにしている。入浴の記録をとり、入浴しない人は清拭をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字教室を開催してかかれたものを鑑賞できるようにしている。体操や散歩を行っており、食事の手伝いも自主的にしておられる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物には出かけているし、時にはドライブも行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームから出るときのチャイムやモニターでチェックをしておられるが徘徊の人がおられるため鍵がかかっている。		ホームが自分の住むおうちであることの取り組みが期待される。(自室内でいつも要望していることをするなど考えられる。)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作り防災訓練を行っており、消防署の確認印がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に一人ひとりの栄養摂取量、水分量が記録され管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は食事場所と兼用であるが広く作られており、応接セット3セット、タミの場所に掘りごたつがあり、食卓は4~6名でゆっくりとできる。大きな手作りのカレンダーと大きい時計も置いてある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の希望する家財を持ち込んでおり居室内では自分の時間が持てるように配慮している。		